

**第2次支援 報告会開催される**

**……民医連の活動に参加し、団結の強さに感動！**

昨日11日、午後6時より7階食堂で東日本大震災の第2次医療支援報告会を行いました。

第2陣として参加した、西原医師、原看護師、信野事務次長の3名に加えて、震災発生1週間後に第1陣で参加した丸岡看護師より報告を受けました。

本来昨日のこの時間は生協医局会議の時間でしたが、急遽医局運営委員会のご好意で報告会に変更させていただきました。7階食堂には、業務中の手を休めての職員、仕事を終えて帰宅する前に参加した職員でいっぱい。3人に加えて45人の職員と医学生さんが参加しました。



西原先生からは、坂総合病院の外来支援、避難所で急ごしらえされた診察室での診察や被災者からの話を聞いた経験などが詳しく報告されました。7日の最大余震であった震度6の揺れについての経験談では、上からパイプが落ちてきたという怖い話もありました。信野次長が「大丈夫ですか」と上に覆い被さってきたという武勇伝も披露されました。

信野事務次長からは、事務職として積極的に自分ができることには手を挙げて参加してきたこと、特に瓦礫やヘドロの中に散乱したカルテを捜索したこと、足湯や避難所で暖かいものを食べていないという声を聞きつけ「おかゆ」の炊き出しの準備をした経験などが話されました。

原看護師からは、在宅で避難しておられる方を訪問し、粉塵と悪臭のなか、大変な生活をしておられる実態について話があり、今後のさまざまな継続した医療支援の必要性について指摘がありました。また、原看護師は「自分は入職して5年になるが、民医連としての活動には全く参加していなかった。今回参加してみて民医連の団結力の凄さを実感した。自分の考え方が変わった。今後、若い人を中心に多くの職員が支援に参加されたいと思う。」との感動的な感想が述べられました。

さらに、第1陣で参加した丸岡看護師さんからは、坂総合病院の外来「黄」ブース（重症でもなく軽症でもない）での看護経験について話されました。

質問のなかでは、村田委員長よりトリアージブースのことや救急時の体制などについて質問がありました。

西原先生から、非常時のすばやく対応については驚いたということと、やはり日頃からの訓練の大切さが強調されました。



**5月以降の支援については、全国の地協ごとに長期的な支援体制を組んでいくことになっており、広島は中四国地協の割り振りによって支援体制を作っていくことになりそうです。**

**第3陣支援以降は、日程を示してその日程に入れる人を募集するということになります。今後ともみんなで被災地の民医連、医療生協、住民のみなさんを支援し、励まし、健康で元気な東北地方になっていくようがんばっていきましょう。**